

特別史跡名古屋城跡全体整備検討会議 天守閣部会(第15回)

日時：平成31年1月30日（水）13:30～16:30

場所：KKRホテル名古屋 芙蓉の間

会議次第

1 開会

2 あいさつ

3 報告

4 議事

- ・第14回天守閣部会における主な指摘事項と対応状況について [資料-1]
- ・金鏡について [資料-2]
- ・左官について [資料-3]

5 その他

6 閉会

特別史跡名古屋城跡全体整備検討会議 天守閣部会（第15回）名簿

日時：平成31年1月30日（水）13:30～16:30
場所：KKRホテル名古屋 芙蓉の間

（敬称略）

■構成員

氏名	専門分野	所属等	出欠
小野 徹郎	建築学	名古屋工業大学名誉教授	出席
川地 正数	建築生産	川地建築設計室主宰	出席
瀬口 哲夫	近代建築史、まちづくり	名古屋市立大学名誉教授	出席
西形 達明	地盤工学	関西大学名誉教授	出席
麓 和善	建築史、文化財保存修理	名古屋工業大学大学院教授	出席
古阪 秀三	建築生産	立命館大学客員教授	出席
三浦 正幸	日本建築史、文化財学	広島大学名誉教授	出席

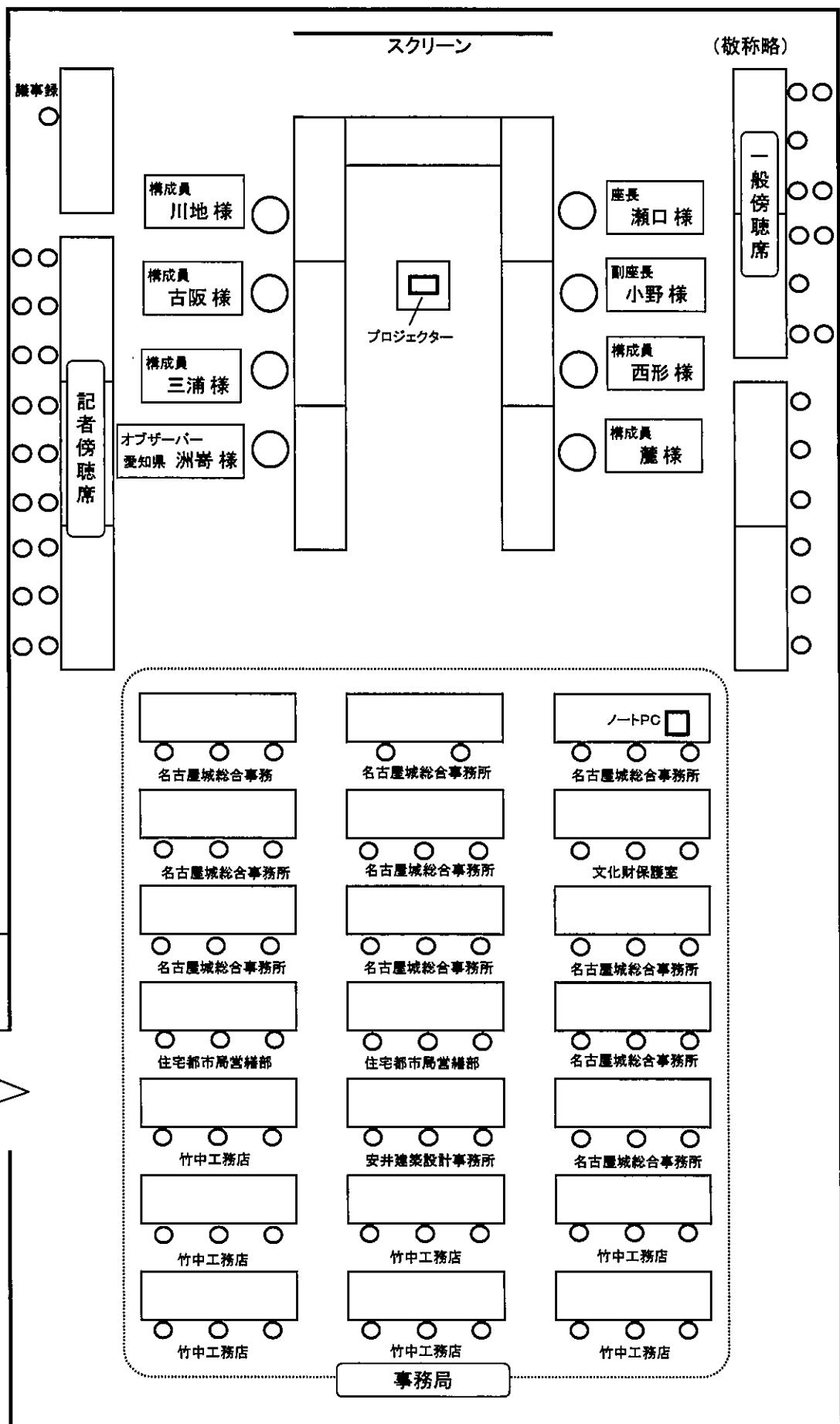
・オブザーバー

氏名	所属等	出欠
洲寄 和宏	愛知県教育委員会生涯学習課文化財保護室室長補佐	出席

特別史跡名古屋城跡全体整備検討会議 天守閣部会(第15回)

座 席 表

平成31年1月30日(金)
13:30~
KKRホテル名古屋 芙蓉の間



■特別史跡名古屋城全体整備検討会議（第14回天守閣部会）における主要な指摘事項と対応

発言者	該当章	該当頁	主な指摘事項	対応
古阪 濑口	資料-1 前回の指摘事項と対応	1	石垣について、現在どういう点が問題となつてしているのかを提示してほしい。 また、それらの問題点がいつどうしたら解決できるのか、なぜ文化庁の許可がもらえないのか、等についても整理して、できれば次回天守閣部会で提示してほしい。	別紙の通り（別添資料1-1）
麓	資料3	1	平瓦敷込み銅板について事例として姫路城の写真があるが、写真上部に破風が見え、また銅板が平唐草瓦の上から敷かれていることから、全ての軒先に銅板が敷かれているのでなく、谷棟部分からつながる平瓦部分に銅板が敷かれている事例と思われる。全ての軒先で提案のような捨て銅板をしいでいるのかを確認しておいてほしい。	先生の御指摘の通り、姫路城での瓦下の敷込み銅板は全ての軒先に施されたものではなく、各重屋根と破風部取合の谷棟から連続する平瓦とその面側の平瓦の3列です。また平唐草瓦と敷平の間ではなく、平唐草瓦の上から敷く通る道筋への漏水対策ともう一つの事例の東本願寺では軒先の水の迷げ道として、平唐草と敷平の間に敷き込んでいます（別添資料1-2）。もくじを確認しました。粘土瓦部分の軒先下地については、ライフサイクルコストの面からも再度検証し、部会で改めて御提示致します。

天守台石垣調査についての課題と対応

<経緯>

- ・天守台石垣については、現況を調査し、それに基づいて保存方針を策定し、文化庁に提出することとしている。
- ・昨年 9 月までに天守台石垣の保存方針の案を作成したが、石垣部会の了解を得られておらず、文化庁へ提出できていない。

<課題>

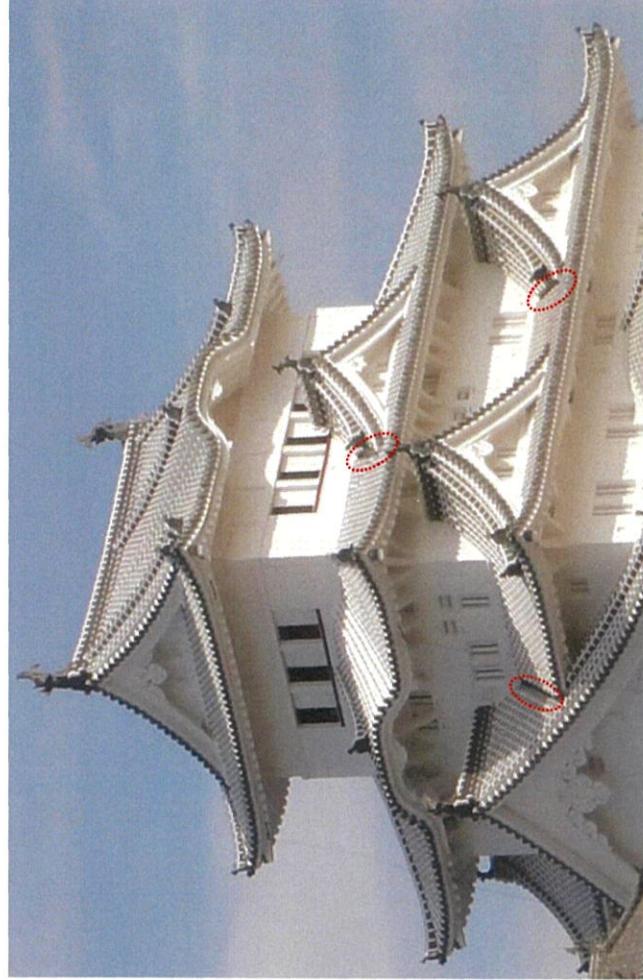
- ・天守台石垣の調査により、石垣が危険な状態であることが明らかになってきたが、まだ調査結果の分析が、部会で十分検討できていない。
- ・上記の分析を踏まえた、石垣に対する具体的な対応が決まっていない。
- ・天守台石垣の本質的価値を明らかにするための、歴史資料の分析・検討が不十分である。

<対応>

- ・文化財石垣保存技術協議会評議員のコンサルタントから助言を得ながら、天守台石垣の保存についての検討を進める。
- ・早急に天守台石垣保存の指針を定め、石垣部会の了解を得る。
- ・指針に基づき、調査結果の分析を進めるとともに、歴史資料の分析を進める。
- ・上記の分析を踏まえ、石垣部会に諮りながら保存方針を定めていく。

■前回(第14回)天守閣部会での説明内容の一部抜粋
大天守初重及び小天守の粘土瓦葺部分の復元案について

- ・姫路城で捨て銅板が施されている箇所について



出典 姫路城大天守保存修理工事報告書

- ・各重屋根と破風部の取合部に設けられる谷樋（銅板）端部から連続する平瓦部（3列分）に捨て銅板が施されており、前回提案のように全て軒先に捨て銅板が施されているのではない。
- 雨水の流れが集中する部分への対策

・想定される不具合と対策

瓦の隙間から雨水が侵入した場合、土居葺きの表面を流れ、軒先に溜り、軒廻り材を内側から腐朽させることや、軒先を塗りこめた漆喰の剥落が想定される。

⇒軒先 : 銅板を挿入し軒平唐草と敷平に挟み込み、排水レートを確保する。

屋根・外壁取合い部 : 同じく銅板を挿入し、クラック等から雨水が侵入した場合、土居葺面に導くようにする。

